



DevOperation Platform

スターターガイド

第 1.2 版
株式会社野村総合研究所

はじめに

- 本書は、DevOperation Platform(以下、DevOP)が提供するサービス内容及びサービスレベル、その他利用上の注意事項等の情報をまとめたものです。
- 本書は、DevOP を利用する前に一読下さい。なお、万一ご不明な点や誤り、記載漏れなど、お気づきの点がございましたら弊社までお知らせ下さい。
- 本書に記載した内容は予告無く変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断でコピーすることは法律で禁止されています。
- 本誌で引用の会社名・製品名は一般にそれぞれの会社の商標、もしくは登録商標です。なお、本誌中では、™、® マークなどは明記していません。

1 サービス利用開始手順

サービス利用開始手順

1.1 サービス利用開始手順

1 章「サービス利用開始手順」目次

1	サービス利用開始手順	1
1.1	サービス利用開始手順	3
1.1.1	サービス利用前の事前準備	3
1.1.2	サービス利用開始手順（ジョブ稼働統計、キャパシティライセンス所持）	5
1.1.3	サービス利用開始手順（ジョブ稼働統計、キャパシティライセンス非所持） .	10

1.1 サービス利用開始手順

1.1.1 サービス利用前の事前準備

適用可能環境

- 千手マネージャ Ver12.0 以上
- 千手マネージャライセンスとしてジョブ稼働履歴情報を参照する場合はジョブ稼働統計ライセンス、モニタリング履歴情報を参照する場合にはキャパシティライセンスが必要
メッセージ履歴情報のみを参照する場合には、特別なライセンスは不要
- Web ブラウザ推奨稼働環境
日本語版 Microsoft Edge (Chromium)
日本語版 Firefox
日本語版 Google Chrome
CACHATTO (スマートフォンからアクセスする場合)

ネットワーク疎通

DevOP DB と千手マネージャのネットワーク疎通が完了していること。

項番	ノード名	ポート番号	方向	ノード名	ポート番号
1	千手マネージャ	gt1024/tcp	→	DevOP DB サーバ	8139～8148/tcp のいずれか 1 つ※
2	千手マネージャ	8421/tcp	←	DevOP DB サーバ	gt1024/tcp

※ポート番号は、サービスのご利用をお申込みいただいた後に送付される「DevOP アクセス情報確認書」をご参照ください。



- 自動メール設定

以下の切り分け条件に該当する障害メッセージが発生した際に ESP 等で自動メール送信が行われるよう下記の設定をお願いします。

- ・ 送信先アドレス

devop-call@nri.co.jp

- ・ 切り分け条件

!ANMD.*

!DCM8.*

!PEXD.*

!RBAD.*

- サービスのご利用開始方法

- ・ ジョブ稼働統計、キャパシティのライセンスを所持している場合は、
「1.1.2サービス利用開始手順（ジョブ稼働統計、キャパシティライセンス所持）」を参照しサービスのご利用を開始してください。

- ・ ジョブ稼働統計、キャパシティのライセンスを所持していない場合は、
「1.1.3サービス利用開始手順（ジョブ稼働統計、キャパシティライセンス非所持）」を参照しサービスのご利用を開始してください

1.1.2 サービス利用開始手順（ジョブ稼働統計、キャパシティライセンス所持）

A) 既存データベースサーバーへのデータ蓄積停止

1. ログイン

千手マネージャへ、千手稼働アカウントでログインします。

2. 千手情報設定ツールの起動

プロンプトより千手情報設定ツールを起動します。

Windowsの場合：sj_change_config.cmd

UNIX、Linuxの場合：sj_change_config.com

3. 「千手構成情報設定メニュー」画面が表示されますので、「2」を入力します。

```
----- 千手構成情報設定メインメニュー -----  
1 データベース情報の設定 [現在値の参照]  
2 データベース情報の設定  
3 終了  
番号を入力して下さい。  
: 2
```

4. 「データベース情報の設定」画面が表示されますので、「1」を入力します。

```
--- 「データベース情報の設定」 ---  
設定を行いたい情報の番号を入力して下さい。  
1 千手データベースサーバー名の設定  
2 千手データベース種別の設定  
3 千手データベースアカウントの設定  
4 接続ポート番号  
5 1~4 の設定  
6 メインメニューに戻る  
番号を入力して下さい。  
: 1
```

5. 「千手データベースサーバー名を入力して下さい」画面が表示されますので、(not-configured)を入力します。※カッコも入力します。 保存内容の確認が求められますので、正しい場合は「y」を入力します。

```
-千手データベースサーバー名を入力して下さい。（省略不可）  
: (not-configured)  
千手データベースサーバー名 : hostA を (not-configured) に変更します。  
よろしいですか? (y/n)  
: y  
千手データベースサーバー名の設定処理が終了しました。
```

※ hostA は、既存データベースサーバー名が表示されます。

6. 再び「データベース情報の設定」の画面に戻りますので、"6"を入力します。

```
---「データベース情報の設定」---  
設定を行いたい情報の番号を入力して下さい。  
1 千手データベースサーバー名の設定  
2 千手データベース種別の設定  
3 千手データベースアカウントの設定  
4 接続ポート番号  
5 1～4 の設定  
6 メインメニューに戻る  
番号を入力して下さい。  
: 6
```

7. 「千手構成情報設定メニュー」に戻りますので、"3"を入力し、設定画面を終了します。

```
----- 千手構成情報設定メインメニュー -----  
1 データベース情報の設定 [現在値の参照]  
2 データベース情報の設定  
3 終了  
番号を入力して下さい。  
: 3
```

8. 登録情報の反映

千手ブラウザにログインします。

ツリービューで、＜ドメイン＞→[ノードグループ]→[全体]→＜千手データベースサーバーとなっていたノード＞を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューで、「反映（監視属性）」を実施します。

9. 千手システムプロセスの再起動

ツリービューで、＜ドメイン＞→[ノードグループ]→[全体]→＜千手マネージャ＞を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[ツール（ノードモニタ）]を選択します。

ノードモニタより[プロセス]タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[停止]を選択します。（ライセンスの有無により表示されないプロセスがあります）

```
SpDbSyncCInt  
SpEsdCInt  
sjANM_logDbBased  
sjANM_logDbExtd  
sjPEX_logDbd  
sjPEX_logFiled
```

```
sjRBA_logDbd  
sjNETdiscover  
sjNET_gatewayd
```

続けてプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「起動」を選択します。



本手順を実施することにより、以下の障害メッセージが発生することがありますが、運行には影響がないので、無視していただきますようお願いします。

!ANM112 プロセスが異常終了しました。

10. 千手データベースサーバプロセス停止

ツリービューで、＜ドメイン＞→[ノードグループ]→[全体]→＜千手データベースサーバ＞を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「ツール（ノードモニタ）」を選択します。

ノードモニタより「プロセス」タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「停止」を選択します。

```
sjESD_server  
sjESD_cron d ※UNIX 版千手マネージャをデータベースサーバとしている場合
```

B) DevOperation Platform のデータベースサーバー設定

1. 設定変更前に千手マネージャのファイルバックアップを取得します。

Windowsの場合	%SENUHOMExxxdatxjsj_esd.ini %SENUHOMExxxdatxjsj_cf.ini
UNIX、Linuxの場合	\$SENUHOMExxxdat/sj_esd.ini \$SENUHOMExxxdat/sj_cf.ini

2. 「DevOPアクセス情報確認書」を参照し、「sj_esd.ini」の編集および確認を行います。

sj_esd.ini ファイル	値
@CF_VERSION=1	
DB_SERVER=hostA	DevOP DB IP アドレス
DB_NAME=senjuDB_hostA	senjuDB_<千手マネージャ名>
DB_DSN=senjuDSN_hostA	senjuDSN_<千手マネージャ名>
DB_ACCOUNT=senju	DevOP DB アクセスアカウント
DB_ATTESTID==AVHn0cuJt1GKVw==	
DB_TYPE=1	1 であること
DB_CONNECT=20	
ESD_PORTNO=8139	DevOP DB で使用するポート番号
ESD_MAXCLIENT=100	
ESD_CRN_DB_CONNECT=10	

編集内容を確認し、ファイルを上書き保存します。



「DB_NAME」は千手マネージャのバージョンが 2016 以上の場合のみの項目となります。

3. 「DevOP アクセス情報確認書」を参照し「sj_cf.ini」の編集および確認を行います。

sj_cf.ini ファイル	DevOPアクセス情報確認書
@CF_VERSION=1	
DB_SERVER=hostA	DevOP DB IP アドレス
DB_NAME=senjuDB_hostA	senjuDB_<千手マネージャ名>
DB_DSN=senjuDSN_hostA	senjuDSN_<千手マネージャ名>
DB_ACCOUNT=senju	DevOP DB アクセスアカウント
DB_ATTESTID==AVHn0cuJt1GKVw==	
DB_TYPE=1	1 であること
DB_CONNECT=20	
ESD_PORTNO=8139	DevOP DB で使用するポート番号
ESD_MAXCLIENT=100	
ESD_CRN_DB_CONNECT=10	

編集内容を確認し、ファイルを上書き保存します。



「DB_NAME」は千手マネージャのバージョンが 2016 以上の場合のみの項目となります。

C) WEB コンソールへのアクセス

WEB コンソールを利用した情報参照の確認を実施します。

「DevOP アクセス情報確認書」にある「公開用 URL」へ Webブラウザ よりログイン確認を実施します。

D) 作業完了のご連絡

作業が完了したことと、URL より情報参照の可／不可をメールにてご連絡下さい。

DevOP 連絡先 : devop-service@nri.co.jp

1.1.3 サービス利用開始手順（ジョブ稼働統計、キャパシティライセンス 非所持）



本手順を実施することにより、以下の障害メッセージが発生することがありますが、運行には影響が無いので、無視していただきますようお願いします。

!PEXD56 履歴データに抜けが発生しました。

!RBD56 履歴データに抜けが発生しました。

A) 千手ライセンス適用

1. 発行された新規千手ライセンスキーを千手ブラウザ端末の任意の場所へ保存します。

2. ライセンスキーの変更

千手ブラウザを起動します。

ツリービューで<ドメイン>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「プロパティ」を選択します。

「ライセンスキー変更」ボタンを選択して、千手ブラウザ端末に保存したライセンスキーを指定します。

確認画面が表示されますので、「はい」を選択します。

3. 千手マネージャのDB 蓄積プロセス起動

〔千手マネージャのOS が UNIX 系の場合〕

千手マネージャへ千手稼働アカウントでログインします。 下記のコマンドを実行します。

```
% sjANM_daemon -s -p -x"nohup sjPEX_logDbd -S -E" -nsjPEX_logDbd
% sjANM_daemon -s -p -x"nohup sjANM_logDbd -B -S -E" -nsjANM_logDbBased
% sjANM_daemon -s -p -x"nohup sjANM_logDbd -X -S -E" -nsjANM_logDbExtd
```

※ %は千手稼働アカウントのプロンプト表示です。

〔千手マネージャのOS が Windows 系の場合〕

千手ブラウザにログインします。

ツリービューで、<ドメイン>→〔ノードグループ〕→〔全体〕→<千手マネージャ>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「ツール（ノードモニタ）」を選択します。

ノードモニタより〔プロセス〕タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「起動」を選択します。

```
sjANM_logDbBased
sjANM_logDbExtd
sjPEX_logDbd
```

4. 千手システムプロセスの再起動

千手ブラウザにログインします。

ツリービューで、＜ドメイン＞→[ノードグループ]→[全体]→＜千手マネージャ＞を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[ツール(ノードモニタ)]を選択します。

ノードモニタより[プロセス]タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[停止]を選択します。

sjANM_logDivd

続けてプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[起動]を選択します。



本手順を実施することにより、以下の障害メッセージが発生することがありますが、運行には影響がないので、無視していただきますようお願いします。

!ANM112 プロセスが異常終了しました。

B) DevOperation Platform のデータベースサーバー設定

1. 設定変更前に千手マネージャのファイルバックアップを取得します。

Windowsの場合	%\$SENJUHOME%\dat\sj_esd.ini %\$SENJUHOME%\dat\sj_cf.ini
UNIX、Linuxの場合	\$\$SENJUHOME/dat/sj_esd.ini \$\$SENJUHOME/dat/sj_cf.ini

2. 「DevOPアクセス情報確認書」を参照し、「sj_esd.ini」の編集および確認を行います。

sj_esd.ini ファイル	値
@CF_VERSION=1	
DB_SERVER=hostA	DevOP DB IP アドレス
DB_NAME=senjuDB_hostA	senjuDB_<千手マネージャ名>
DB_DSN=senjuDSN_hostA	senjuDSN_<千手マネージャ名>
DB_ACCOUNT=senju	DevOP DB アクセスアカウント
DB_ATTESTID==AVHn0cuJt1GKVw==	
DB_TYPE=1	1 であること
DB_CONNECT=20	
ESD_PORTNO=8139	DevOP DB で使用するポート番号
ESD_MAXCLIENT=100	
ESD_CRN_DB_CONNECT=10	

編集内容を確認し、ファイルを上書き保存します。



「DB_NAME」は千手マネージャのバージョンが 2016 以上の場合のみの項目となります。

3. 「DevOPアクセス情報確認書」を参照し「sj_cf.ini」の編集および確認を行います。

sj_cf.ini ファイル	DevOP アクセス情報確認書
@CF_VERSION=1	
DB_SERVER=hostA	DevOP DB IP アドレス
DB_NAME=senjuDB_hostA	senjuDB_<千手マネージャ名>
DB_DSN=senjuDSN_hostA	senjuDSN_<千手マネージャ名>
DB_ACCOUNT=senju	DevOP DB アクセスアカウント
DB_ATTESTID==AVHn0cuJt1GKVw==	
DB_TYPE=1	1 であること
DB_CONNECT=20	
ESD_PORTNO=8139	DevOP DB で使用するポート番号
ESD_MAXCLIENT=100	

ESD_CRN_DB_CONNECT=10	
-----------------------	--

編集内容を確認し、ファイルを上書き保存します。



「DB_NAME」は千手マネージャのバージョンが 2016 以上の場合のみの項目となります。

4. 千手プロセスの停止起動

千手ブラウザにログインします。

ツリービューで、<ドメイン>→[ノードグループ]→[全体]→<千手マネージャ>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[ツール(ノードモニタ)]を選択します。

ノードモニタより[プロセス]タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスを ON にします。以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[停止]を選択します。

SpDbSyncCInt

続けてプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[起動]を選択します。

5. 千手プロセスの起動

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[起動]を選択します。

SpEsdCInt

C) WEB コンソールへのアクセス

WEB コンソールを利用した情報参照の確認を実施します。

「DevOP アクセス情報確認書」にある「公開用URL」へ Webブラウザよりログイン確認を実施します。

D) 作業完了のご連絡

作業が完了したことと、URL より情報参照の可／不可をメールにてご連絡下さい。

DevOP 連絡先 : devop-service@nri.co.jp

このページは空白です

2 サービス利用廃止手順

サービス利用廃止手順

2.1 サービス利用廃止手順

2 章「サービス利用廃止手順」目次

2	サービス利用廃止手順	1
2.1	サービス利用廃止手順	3
2.1.1	サービス利用廃止前の事前準備	3
2.1.2	サービス利用廃止手順(サービス利用廃止後、千手 DB の利用有り).....	4
2.1.3	サービス利用廃止手順(サービス利用停止後、千手 DB の使用無し).....	9

2.1 サービス利用廃止手順

2.1.1 サービス利用廃止前の事前準備

- サービスの利用廃止方法
 - ・ DevOperationPlatform サービスの利用を廃止後、**千手データベースを利用する場合**は、「2.1.2サービス利用廃止手順(サービス利用廃止後、千手 DB の利用有り)」を参照しサービスの廃止をして下さい。

事前準備

千手マネージャの情報蓄積が可能となるよう、千手データベースの準備をお願いします。

千手ブラウザへ管理対象ノードとして登録をお願いします。

- ・ DevOperationPlatform サービスの利用を廃止後、**千手データベースを利用しない場合**は、「2.1.3サービス利用廃止手順(サービス利用停止後、千手 DB の使用無し)」を参照しサービスの廃止をして下さい。

2.1.2 サービス利用廃止手順(サービス利用廃止後、千手 DB の利用有り)

A) DevOP データベースサーバーへのデータ蓄積停止

1. ログイン

千手マネージャへ、千手稼働アカウントでログインします。

2. 千手構成情報設定ツールの起動

プロンプトより千手構成情報設定ツールを起動します。

Windowsの場合 : sj_change_config.cmd

UNIX、Linuxの場合 : sj_change_config.com

3. 「千手構成情報設定メニュー」画面が表示されますので、「2」を入力します。

```
----- 千手構成情報設定メインメニュー -----  
1 データベース情報の設定 [現在値の参照]  
2 データベース情報の設定  
3 終了  
番号を入力して下さい。  
: 2
```

4. 「データベース情報の設定」画面が表示されますので、「5」を入力します。

```
--- 「データベース情報の設定」 ---  
設定を行いたい情報の番号を入力して下さい。  
1 千手データベースサーバー名の設定  
2 千手データベース種別の設定  
3 千手データベースアカウントの設定  
4 接続ポート番号  
5 1~4 の設定  
6 メインメニューに戻る  
番号を入力して下さい。  
: 5
```

5. 「千手データベースサーバー名を入力して下さい」と表示されますので、 ＜千手データベースサーバー＞を入力します。

```
-千手データベースサーバー名を入力して下さい。(省略不可)  
: hostA
```

※ hostA は、千手データベースサーバー名を指定します。

6. 「千手データベースの種別を番号で入力して下さい」と表示されますので、データベースの種別を番号で入力します。

-千手データベースの種別を番号で入力して下さい。(省略不可)

1 Microsoft(R) SQL Server (TM)

2 PostgreSQL

番号を入力して下さい。

:

7. 「千手データベースアカウントを入力して下さい」と表示されますので、アカウントを入力します。

-千手データベースアカウントを入力してください。

アカウントを入力してください。(default=senju)

:

8. 「千手データベースの接続ポート番号を入力して下さい」と表示されますので、ポート番号を入力します。

-千手データベースの接続ポート番号を入力してください。

使用可能ポート番号は 8139~8143 です。

接続ポート番号を入力してください。(default=8139)

:

9. 保存内容の確認が求められますので、正しい場合は「y」を入力します。

10. 再び「データベース情報の設定」の画面に戻りますので、"6"を入力します。

――「データベース情報の設定」――
設定を行いたい情報の番号を入力して下さい。
1 千手データベースサーバー名の設定
2 千手データベース種別の設定
3 千手データベースアカウントの設定
4 接続ポート番号
5 1～4 の設定
6 メインメニューに戻る
番号を入力して下さい。
: 6

11. 「千手構成情報設定メニュー」に戻りますので、"3"を入力し、設定画面を終了します。

――― 千手構成情報設定メインメニュー ―――
1 データベース情報の設定 [現在値の参照]
2 データベース情報の設定
3 終了
番号を入力して下さい。
: 3

12. 登録情報の反映

千手ブラウザにログインします。

ツリービューで、<ドメイン>→[ノードグループ]→[全体]→<千手データベースサーバーノード>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューで、「反映（監視属性）」を実施します。

13. 千手システムプロセスの再起動

ツリービューで、<ドメイン>→[ノードグループ]→[全体]→<千手マネージャ>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[ツール(ノードモニタ)]を選択します。

ノードモニタより[プロセス]タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[停止]を選択します。(ライセンスの有無により表示されないプロセスがあります)

```
SpDbSyncCInt  
SpEsdCInt  
sjANM_logDbBased  
sjANM_logDbExtd  
sjPEX_logDbd  
sjPEX_logFiled  
sjRBA_logDbd  
sjNETdiscover  
sjNET_gatewayd
```

続けてプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[起動]を選択します。



本手順を実施することにより、以下の障害メッセージが発生することがありますが、運行には影響がないので、無視していただきますようお願いします。

!ANM112 プロセスが異常終了しました。

14. 千手データベースサーバプロセス再起動

ツリービューで、<ドメイン>→[ノードグループ]→[全体]→<千手データベースサーバ>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[ツール(ノードモニタ)]を選択します。[プロセス]タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[停止]を選択します。

```
sjESD_server  
sjESD_croncd ※UNIX 版千手マネージャをデータベースサーバとしている場合
```

続けてプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[起動]を選択します。

B) 自動メールの設定解除

「1.1.1 サービス利用前の事前準備」に記載されている切り分け条件に対して devop-call@nri.co.jp 宛へ通知を設定されている場合は、設定の解除をお願いします。

C) DevOP DB サーバと千手マネージャとのネットワーク疎通解除

DevOP DB サーバとのネットワーク設定に関する解除をお願いします。
解除する通信ポートについては「1.1.1 サービス利用前の事前準備」を参照してください。

D) DevOperation Platform サービス停止作業完了のご連絡

DevOperation Platform サービスの停止作業が完了したことをメールにてご連絡ください。

DevOP 連絡先 : devop-service@nri.co.jp

2.1.3 サービス利用廃止手順(サービス利用停止後、千手 DB の使用無し)

A) DevOP データベースサーバーへのデータ蓄積停止

1. ログイン

千手マネージャへ、千手稼働アカウントでログインします。

2. 千手構成情報設定ツールの起動

プロンプトより千手構成情報設定ツールを起動します。

Windowsの場合 : sj_change_config.cmd

UNIX、Linuxの場合 : sj_change_config.com

3. 「千手構成情報設定メニュー」画面が表示されますので、「2」を入力します。

```
----- 千手構成情報設定メインメニュー -----  
1 データベース情報の設定 [現在値の参照]  
2 データベース情報の設定  
3 終了  
番号を入力して下さい。  
: 2
```

4. 「データベース情報の設定」画面が表示されますので、「1」を入力します。

```
--- 「データベース情報の設定」 ---  
設定を行いたい情報の番号を入力して下さい。  
1 千手データベースサーバー名の設定  
2 千手データベース種別の設定  
3 千手データベースアカウントの設定  
4 接続ポート番号  
5 1~4 の設定  
6 メインメニューに戻る  
番号を入力して下さい。  
: 1
```

5. 「千手データベースサーバー名を入力して下さい」画面が表示されますので、(not-configured) を入力します。※カッコも入力します。 保存内容の確認が求められますので、正しい場合は「y」を入力します。

```
-千手データベースサーバー名を入力して下さい。(省略不可)  
: (not-configured)  
千手データベースサーバー名 : <DevOp service DB>を (not-configured) に変更します。  
よろしいですか? (y/n)  
: y  
千手データベースサーバー名の設定処理が終了しました。
```

6. 再び「データベース情報の設定」の画面に戻りますので、"6"を入力します。

---「データベース情報の設定」---

設定を行いたい情報の番号を入力して下さい。

- 1 千手データベースサーバー名の設定
- 2 千手データベース種別の設定
- 3 千手データベースアカウントの設定
- 4 接続ポート番号
- 5 1～4 の設定
- 6 メインメニューに戻る

番号を入力して下さい。

: 6

7. 「千手構成情報設定メニュー」に戻りますので、"3"を入力し、設定画面を終了します。

----- 千手構成情報設定メインメニュー -----

- 1 データベース情報の設定 [現在値の参照]
- 2 データベース情報の設定
- 3 終了

番号を入力して下さい。

: 3

8. 千手システムプロセスの再起動

ツリービューで、<ドメイン>→[ノードグループ]→[全体]→<千手マネージャ>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[ツール(ノードモニタ)]を選択します。

ノードモニタより[プロセス]タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[停止]を選択します。(ライセンスの有無により表示されないプロセスがあります)

SpDbSyncCInt
SpEsdCInt
sjANM_logDbBased
sjANM_logDbExtd
sjPEX_logDbd
sjPEX_logFiled
sjRBA_logDbd
sjNETdiscover
sjNET_gatewayd

続けてプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから[起動]を選択します。



本手順を実施することにより、以下の障害メッセージが発生することがありますが、運行には影響がないので、無視していただきますようお願いします。

!ANM112 プロセスが異常終了しました。

B) 千手ライセンス適用

1. 発行された新規千手ライセンスキーを千手ブラウザ端末の任意の場所へ保存します。

2. ライセンスキーの変更
千手ブラウザを起動します。

ツリービューで<ドメイン>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「プロパティ」を選択します。

「ライセンスキー変更」ボタンを選択して、千手ブラウザ端末に保存したライセンスキーを指定します。

確認画面が表示されますので、「はい」を選択します。

3. 千手システムプロセスの再起動
千手ブラウザにログインします。

ツリービューで、<ドメイン>→「ノードグループ」→「全体」→<千手マネージャ>を選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「ツール（ノードモニタ）」を選択します。

ノードモニタより「プロセス」タブを選択し、「システムプロセスを表示」チェックボックスをONにします。

以下のプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「停止」を選択します。

sjANM_logDivd

続けてプロセスを選択し、右ボタンをクリックして表示されるコンテキストメニューから「起動」を選択します。

C) 自動メールの設定解除

「1.1.1 サービス利用前の事前準備」に記載されている切り分け条件に対して devop-call@nri.co.jp 宛へ通知を設定されている場合は、設定の解除をお願いします。

D) DevOP DB サーバと千手マネージャとのネットワーク疎通解除

DevOP DB サーバとのネットワーク設定に関する解除をお願いします。

解除する通信ポートについては「1.1.1 サービス利用前の事前準備」を参照してください。

DevOperation Platform サービス停止作業完了のご連絡

DevOperation Platform サービスの停止作業が完了したことをメールにてご連絡ください。

DevOP 連絡先：devop-service@nri.co.jp

このページは空白です